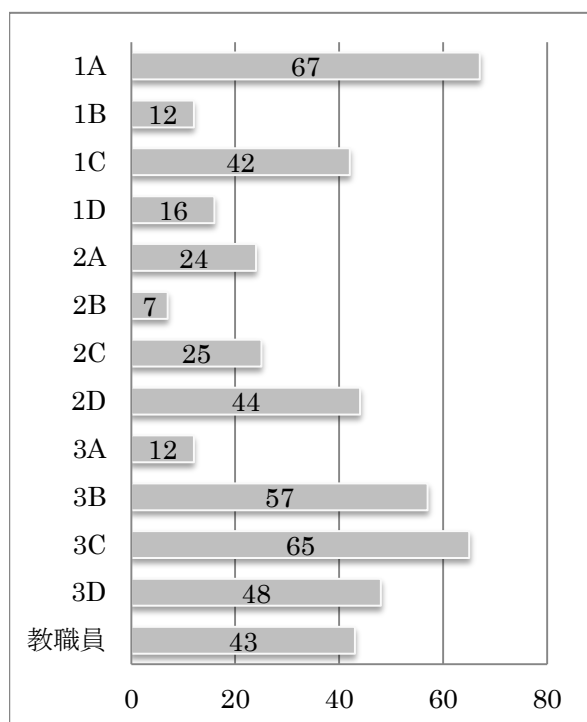


図書室だより vol.126

♪クラス別貸出冊数発表(9/1~2/9)♪



【一人あたりの貸出冊数】上位は

★★★★★1位…1A(1.60冊)

★★★★★2位…3C(1.48冊)

★★★3位…3B(1.36冊)

★★4位…1C(1.05冊)

★5位…3D(1.02冊)

- ☞一人あたりの貸出冊数が少ないですね！毎日忙しいとは思いますが、図書室で借りなくても、自分で購入して読んでいてくれると嬉しいです。3年生は社会科研究のための資料を多く借りていました。
- ☞3年生の貸出は2/9(金)で終了しましたが、図書室での閲覧はできます。3年間の図書室利用、ありがとうございました。
- ☞1・2年生には3/9(金)から、春休みの長期貸出を開始します。一人5冊まで借りることができます。

☆図書委員からのオススメ☆

『容疑者Xの献身』 東野圭吾:著 文春文庫(B918-7)

私が今回紹介したい本は東野圭吾作の『容疑者Xの献身』だ。

探偵ガリレオシリーズ初の長編作で第134回直木賞受賞、

2008年には映画化もされた有名な作品となっている。

物語冒頭、私たち読者は犯人が分かったうえでの殺人事件を目の当たりにする。

その殺人を犯した母娘を救うために天才数学者の石神が完璧なアリバイ工作をする。

それによって難解になってしまった殺人事件に警察はお手上げ状態になり、

警視庁捜査一課の草薙は湯川に相談する。初めは興味を示さない湯川だが、

事件に大学時代の友人である石神が関わっているのではないかと睨むと独自に調査に乗り出す。

最終的に湯川によって崩されたアリバイ工作の真相と

題名の通りの「容疑者Xの献身」に涙なしで読まずにはいられない。

この作品の面白いところは読者が事件自体の犯人はわかっているのに

警察がつかんでいる情報と噛み合わずに翻弄されてしまうことだろう。

各所に散りばめられた伏線がすべて繋がるだけのミステリーではない、

登場人物の想いに胸を打たれる作品だ。

いつもとは少し違ったミステリーを読んでみたい人に薦めたい。

1年 女子図書委員

3年生の皆さん、高校時代の読書記録に読書通帳を作りませんか？3年間に図書室で借りた本の書名、借りずに買ったからおいくら？などがわかります。希望する人はカウンターに声をかけて下さい。もちろん1・2年生も作れます♪